

科目名	微生物学	対象学年・時期	1年 前期
講師	非常勤講師	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>ディプロマポリシー3に基づく。微生物には、生物の浄化、日常生活に有用な作用、病原性など害を及ぼす作用があるものがある。すなわち微生物は、人間が生きていく上では必要不可欠なものであるが、一方で微生物の中には病原微生物が存在し、それらは感染症の原因となることを意味する。近代看護の創始者であるフローレンス・ナイチンゲールは「病院がそなえているべき第一の必要条件は、病院は病人に害毒を与えないことである」と述べている。微生物についての正しい知識を持ち病原微生物の特徴を理解し、感染症を蔓延させないことこそが看護者の役割の一つである。病原微生物の特徴を捉え感染・発症のメカニズムを正しく理解し、観察とアセスメントについての基本的な知識習得をねらいとし科目設定とする。</p>		
授業形態	講義		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質を理解する</li> <li>2. 感染の成立と発症のメカニズム、及び感染症の予防について理解する</li> <li>3. 個々の病原微生物の特徴と感染症について理解する</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物の性質</li> <li>2. 細菌の性質</li> <li>3. 真菌の性質</li> <li>4. 原虫の性質</li> <li>5. ウイルスの性質</li> <li>6. 感染と感染症</li> <li>7. 感染症の予防</li> <li>8. 病原細菌と細菌感染症</li> <li>9. 病原真菌と真菌感染症</li> <li>10. 病原原虫と原虫感染症</li> <li>11. ウイルスとウイルス感染</li> </ol>		
使用テキスト・参考書	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 (医学書院)		
事前・事後学修			
評価基準・評価方法	筆記試験		
備考	特になし		